

ウンカ類情報第1号

令和8年7月3日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

トビイロウンカの発生は確認されていません セジロウンカの発生量は平年並～やや多い

1 トビイロウンカ及びセジロウンカの飛来予測

日本植物防疫協会提供の飛来予測によると、本県へのトビイロウンカ及びセジロウンカの飛来に適した気象条件は、7月3日時点で5月4日、6月21日（図）、7月2日の計3回出現しています。本県に飛来している可能性がありますので、今後の発生動向に注意してください。

2 トビイロウンカ

6月下旬の本田調査では発生を確認しておらず、予察灯においても誘殺されていません。

3 セジロウンカ

6月下旬の本田すくい取り調査において、77ほ場中5ほ場で成幼虫が捕獲されました。また、本田払い落とし調査において、87ほ場中6ほ場で成幼虫が捕獲されました。捕獲虫数はすくい取りが平年並、払い落としは平年よりやや多い状況です（表）。

予察灯では、豊川市で6月11日に1頭、長久手市で6月25日及び30日に1頭ずつ誘殺されています。

ほ場ごとに発生量が異なると考えられるため、ほ場をよく観察し、発生量が多い場合は防除しましょう。今後、斑点米カメムシ類の防除時期に入りますので、同一薬剤の連用にならないよう、計画的に薬剤を選択しましょう。なお、本県で栽培されている「あいちのかおり SBL」や「あいちのころ」はセジロウンカ殺卵反応^(注)が弱い品種であるため、注意をしてください。

(注) セジロウンカの産卵によって殺卵物質が生成されるイネの生体防御反応

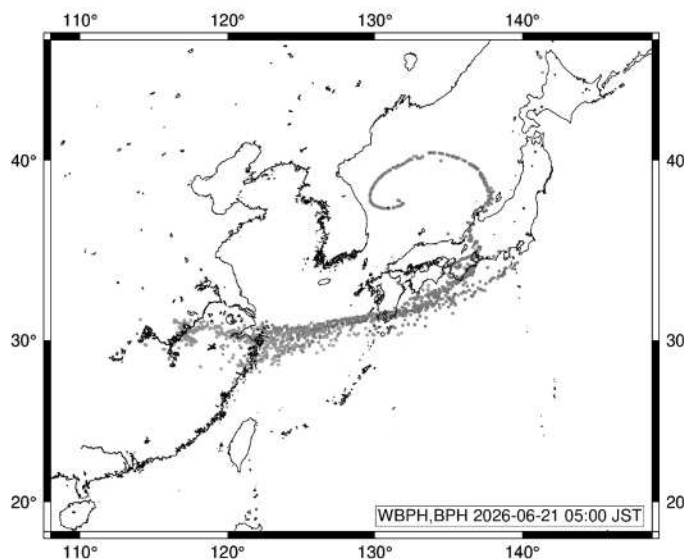


図 ウンカ類飛来予測図(6月21日5時)

提供：JPP-NET

表 セジロウンカの6月下旬本田調査結果
(1ほ場あたり平均捕獲虫数 単位：頭)

調査方法	成虫	幼虫	計
捕虫網による	0.08	0.04	0.12
20回すくい取り	(0.08)	(0.02)	(0.10)
水稻10株の 払い落とし	0.06	0.13	0.18
	(0.04)	(0.12)	(0.16)

() 内は、平年値(平成28～令和7年の平均)